

I 実践

1 研究主題 「人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進」 ～教育活動全体を通じた生徒の人権感覚や人権意識の育成～

(1) 主題設定の理由

本校では、「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にし合う生徒の育成」「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒の育成」「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒の育成」を人権教育の目標としている。

本校の生徒は、素直で落ち着いて学校生活を送っている。しかし、現3学年の生徒が1学年の頃、生徒同士の間で心ない行いが見られたことから、「いじめ撲滅委員会（以下、通称のI B Iで記載）」が結成され、学年の雰囲気をよくしていこうという活動が盛んになった。現在では、その活動が広く認知されるようになり、いじめ撲滅推進校に指定されたり、茨城新聞社の取材を受けたりする機会があった。今年度になり、I B Iの活動を全校に広げようという動きが起こり、「いばキラTV」で紹介された。

そこで、例年行われている活動に加え、I B Iの活動を全校に広げることを通して、あらゆる場面で思いやりの気持ちを持った生徒を育成できるよう、この主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 委員会活動や地域行事への参加等を通して、ボランティア精神を育成する。
- イ 道徳の授業を通して人権意識を高める。
- ウ 生徒の主体的な活動を通して人間関係を深める。
- エ 外部講師の講演を通して、人権に関する情報や知識を得る。
- オ I B Iの活動を通して、あらゆる場面で他者を思いやる気持ちを育てる。

2 実践内容

(1) 毎年度継続して実施している活動

- ア あいさつ運動や「さわやかマナーアップ運動」
- イ ピアサポート研修講座の実施
- ウ 道徳授業の充実
 - 学年一斉の時間割編成、全学級道徳の授業参観実施（12月）
- エ 敬老会、福祉の集い等、地域行事への参加
- オ 福祉委員会の呼びかけによる募金活動
- カ 体育祭での敬老種目の実施（坂中からの贈り物）
- キ 人権作文や標語への応募
- ク 外部講師を招いての性教育講演会や情報モラル講演会の開催

(2) I B I（いじめ撲滅委員会）の活動

- ア 常時活動
 - 「いじめゼロ！一人一人をクリーンな心にしよう！」
 - のスローガンのもと、以下の活動を行っている。

(ア) 定例会

隔週水曜日の昼休みに、各学級の様子を報告し合い問題点があれば解決のために話し合う。



【定例会の様子】

(イ) あいさつ運動

生活委員会のあいさつ運動とは別に、I B I隊員による朝のあいさつ運動を毎週火曜日に行っている。今年度は、隊員が全学年に広がったので大勢でのあいさつ運動となった。

イ I B I集会

学年支部をつくり、I B Iの理念や活動内容をP Cでのプレゼンテーションや劇で各学年に広めた。



【あいさつ運動の様子】

ウ I B Iフェスティバル

1年の活動をフィードバックする場を設けた。I B Iの隊員が企画し、生徒全員がいじめに対する考えをきちんともてるよう、パビリオン形式で、ゲームやS G E、劇などを行った。

エ I B I 新聞の発行

アンケートの結果や気になることについて、時期にあった内容を選んで掲載し、発行している。廊下に掲載し、誰もが読めるようにしている。

(3) ピアサポート研修講座

ア 1, 2 年生の各クラスで、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルに関わる授業を行なう。



【ピアサポート研修会の様子】

イ 各学級から 3 名程度ピアサポート研修生を選出し、スクールカウンセラーの来校日に研修を受けている。

(4) 外部講師による講演会

ア いのちの教育（性教育講演会）

7 月 2 日、「おおたしろクリニック」の太田代紀子先生を講師に招き、講演会を行った。3 年生を対象に、「性感染症の理解と予防法」、「異性との良い関わり方」について、講演していただいた。



【いのちの教育の様子】

イ ケータイ安全教室（情報モラル教室）

7 月 9 日、KDDI の職員を講師に招き、ラインやメールの危険性について講演していただいた。



【ケータイ安全教室の様子】

(5) 異学年交流給食の実施

異学年での交流を深めながら、本校の一員としての自覚や集団の団結を高め、親睦を図ることをねらいに実施した。

(6) 地域行事への参加

ア 敬老会

福祉委員会が中心になって生徒に呼びかけ、ボランティア参加者を募り参加している。吹奏楽部もアトラクションに演奏で参加している。

イ 福祉のつどい

福祉委員会が中心になり参加者を募集し、60 名以上の生徒が参加した。

2 成果

(1) I B I の活動が新聞やインターネットテレビで取り上げられることで、活動が盛り上がり全校活動が広がった。各学年で支部をつくり、独自の活動も行うようになったことで、より「いじめ撲滅」に対する思いが強くなった。



【いばキラTVの取材の様子】

(2) 「あいさつ運動」「ピア・サポート研修」「人権作文への応募」など、毎年取り組んでいる活動を通して、一部の生徒ではあるが思いやりの気持ちが浸透してきている。継続して指導をし、広げていくことが大切だと感じた。

(3) 「敬老会」や「福祉のつどい」などの地域行事に参加し、お年寄りや小さな子どもとふれ合うことで、他者を思いやりたり助けたりする気持ちが育った。

III 今後の課題

昨年度の課題から、I B I の活動を学年から全校へと広げることができた。しかし、まだまだ、全生徒が同じ気持ちで活動できているわけではない。特に、I B I 隊員以外の 1, 2 学年の生徒は、I B I の存在やいじめをなくすために活動していることは知っていても、具体的な活動内容が浸透しているわけではない。これから、I B I フェスティバルなど、全生徒が関わり、理解を深められる活動を設け、さらに全校に理念を深めていきたい。